2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　株式会社アイリックコーポレーション　上場取引所　東
コード番号　7325　ＵＲＬ　https://www.irrc.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長CEO　（氏名）勝本　竜二
問合せ先責任者　（役職名）上席執行役員CFO　（氏名）高杉　雄介　ＴＥＬ　(03)5840－9551

配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の連結業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	2,719	5.8	△18	－	△12	－	△31	－
2026年６月期第１四半期	2,569	13.3	114	△36.6	118	△35.7	54	△51.6

（注）包括利益　2027年６月期第１四半期　△37百万円（－%）　2026年６月期第１四半期　58百万円（△47.7%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	△3.80	－
2026年６月期第１四半期	6.63	6.51

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	5,952	3,814	62.8
2026年６月期	6,415	3,983	60.8

（参考）自己資本　2027年６月期第１四半期　3,737百万円　2026年６月期　3,899百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	－	16.00	－	16.00	32.00
2027年６月期	－				
2027年６月期（予想）		16.00	－	16.00	32.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年６月期の連結業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期（累計）	5,919	12.1	180	△44.6	180	△45.2	87	△48.0	10.68
通期	12,556	14.5	812	15.6	814	14.4	444	13.2	54.34

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	8,708,000株	2026年６月期	8,708,000株
②　期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	530,667株	2026年６月期	530,667株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	8,177,333株	2026年６月期１Ｑ	8,177,333株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．当四半期決算に関する定性的情報　（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更について）

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第１四半期連結会計期間及び当第１四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第１四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する概況 …… 2
（２）財政状態に関する概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 8
（重要な後発事象） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する概況

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などを背景に、緩やかな回復基調が続いております。一方で、中東情勢の影響を注視する必要があるほか、国内金融資本市場における金利水準の変動などについても、引き続き注視していく必要があります。

当社グループが属する保険業界においては、2026年６月１日に改正保険業法が施行され、顧客本位の業務運営や体制整備義務の強化が一層求められる環境となっております。特定大規模乗合保険募集人に対しては、保険募集管理態勢の強化が求められるとともに、すべての乗合保険代理店に対しては、2028年３月までに比較推奨販売の適正化に向けた具体的な業務対応の検討及び実施が求められております。そのため、これらの制度対応を支援するシステム需要が高まっております。

このような環境の中、当社グループは、2028年６月期を最終年度とする３か年計画の２年目をスタートいたしました。最終年度の目標達成に向け、当第１四半期連結累計期間においては、人材採用・育成の強化及びＭＲＲ拡大に向けた先行投資を実施しております。特に、「保険クリニック事業」においては、店舗網の拡大を支える人材の採用・育成を積極的に進め、また、「ソリューション事業」においては、保険業法改正による事業環境の変化を成長機会と捉え、ＡＳシリーズの機能強化及び導入拡大を推進してまいりました。

これらの結果、当社グループの当第１四半期連結累計期間の売上高は2,719百万円(前年同期比5.8%増)、営業損失18百万円(前年同期は営業利益114百万円)、経常損失12百万円（前年同期は経常利益118百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失31百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益54百万円)となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

①　保険クリニック事業

『保険クリニック』の店舗数は、前連結会計年度末に比べ直営店が３店舗増加の111店舗、ＦＣ店が２店舗減少の197店舗（合計308店舗）となりました。

当第１四半期連結累計期間においても、『保険クリニック』のアンバサダーとして藤岡ファミリーを継続起用し、顧客層をターゲット化した効率的なＷｅｂ広告やＳＮＳ施策などを継続して実施いたしました。直営店部門においては、Ｗｅｂ及び店舗での来店予約数が増加したことなどにより、来店数は前年同期比18.1%増の10,675件となりました。また、一時払い終身保険や変額保険等の特定商品の成約が継続して堅調に推移したことなどから、成約件数は前年同期比4.4%増の5,691件となりました。

ＦＣ部門においては、ＦＣ加盟登録企業は前連結会計年度末に比べ１社減少し104社となりましたが、Ｗｅｂからの送客によるＦＣとの共同募集手数料は前年同期並みの水準で推移いたしました。

費用面では、店舗数の増加に伴う地代家賃の増加に加え、今後の出店計画を見据えた採用活動の強化等により人件費が増加いたしました。

この結果、同事業の当第１四半期連結累計期間の売上高は1,512百万円（前年同期比16.5%増)、セグメント利益は228百万円（同45.5%増）となりました。

②　ＦＡ事業

ＦＡ事業においては、子会社である株式会社ライフアシストにおいて、新規採用を積極的に推進したことなどから、人件費が大幅に増加いたしました。なお、当該人員増強による業績への寄与は、第２四半期連結会計期間以降を見込んでおります。

この結果、同事業の当第１四半期連結累計期間の売上高は559百万円（前年同期比1.0%減)、セグメント損失は27百万円（前年同期は20百万円の利益）となりました。

③　ソリューション事業

改正保険業法が施行され、保険募集における比較推奨販売の適正化や保険募集管理態勢の強化に対応するためのシステムの需要が高まっております。代理店・金融機関向けのＡＳシリーズのID数は7,795IDとなり、ＭＲＲについては、保険会社向けは直前四半期連結会計期間に比べ減少したものの、代理店・金融機関向けは9.6%増加いたしました。今後も、ＭＲＲの継続的な拡大を図るとともに、改正保険業法への対応ニーズを取り込み、保険業界に特化したバーティカルSaaSとしての確立に向け、ＡＳシリーズの機能強化を推進してまいります。

この結果、同事業の当第１四半期連結累計期間の売上高は292百万円（前年同期比11.3%減)、セグメント利益は66百万円（同31.3%減）となりました。

（注）ＭＲＲとは、Monthly Recurring Revenueの略称で、毎月のサブスクリプション売上などの継続性の高い収益のことです。

④　システム事業

子会社である株式会社インフォディオは、『スマートＯＣＲ』に加え『書審ＡＩ』などのＡＩを活用したプロダクトサービスの拡充を図っております。中長期的な成長を見据え、開発人員及び営業人員の増強を図るとともに、生成ＡＩを活用した新サービスの開発及び販売を推進しております。

この結果、同事業の当第１四半期連結累計期間の売上高は458百万円（前年同期比2.1%減）、セグメント損失は52百万円（前年同期は29百万円の利益）となりました。

（注）『スマートＯＣＲ®』とは、ＡＩ（人工知能）を搭載し、ディープラーニング技術（深層学習、人間が自然に行うタスクをコンピュータに学習させる機械学習の手法の一つ）を活用した、非定型帳票対応の次世代型光学的文字認識システムです。

（注）『書審ＡＩ』とは、申込書や契約関連書類の審査・確認業務を自動化するＡＩエージェントです。定型業務の自動化を通じて、業務効率化と審査品質の向上を実現します。

（２）財政状態に関する概況

（資産）

当第１四半期連結会計期間末における流動資産は3,073百万円となり、前連結会計年度末に比べ535百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が376百万円、売掛金及び契約資産が198百万円減少したことによるものであります。固定資産は2,879百万円となり、前連結会計年度末に比べ72百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が47百万円、保証金が37百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、5,952百万円となり、前連結会計年度末に比べ462百万円減少いたしました。

（負債）

当第１四半期連結会計期間末における流動負債は2,045百万円となり、前連結会計年度末に比べ316百万円減少いたしました。これは主に未払金が163百万円、契約負債が138百万円減少したことによるものであります。固定負債は91百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円増加いたしました。これは主に繰延税金負債が14百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,137百万円となり、前連結会計年度末に比べ293百万円減少いたしました。

（純資産）

当第１四半期連結会計期間末における純資産合計は3,814百万円となり、前連結会計年度末に比べ168百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払い等により利益剰余金が161百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は62.8%（前連結会計年度末は60.8%）となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2026年８月14日の「2026年６月期　決算短信」で公表いたしました第２四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,048	1,672
売掛金及び契約資産	1,220	1,021
その他	340	380
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	3,608	3,073
固定資産		
有形固定資産	393	441
無形固定資産		
のれん	195	190
ソフトウエア	761	750
ソフトウエア仮勘定	23	31
顧客関連資産	626	604
その他	0	0
無形固定資産合計	1,608	1,578
投資その他の資産		
投資有価証券	32	32
保証金	585	623
繰延税金資産	58	76
その他	175	176
貸倒引当金	△48	△48
投資その他の資産合計	804	860
固定資産合計	2,806	2,879
資産合計	6,415	5,952

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	76	118
短期借入金	500	500
１年内返済予定の長期借入金	24	24
未払金	568	404
未払費用	127	122
未払法人税等	104	27
契約負債	691	553
賞与引当金	34	42
その他	235	253
流動負債合計	2,362	2,045
固定負債		
長期借入金	8	2
繰延税金負債	22	37
その他	38	52
固定負債合計	68	91
負債合計	2,431	2,137
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,354	1,354
資本剰余金	1,302	1,302
利益剰余金	1,632	1,470
自己株式	△390	△390
株主資本合計	3,899	3,737
新株予約権	0	0
非支配株主持分	83	77
純資産合計	3,983	3,814
負債純資産合計	6,415	5,952

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	2,569	2,719
売上原価	650	628
売上総利益	1,918	2,090
販売費及び一般管理費	1,803	2,108
営業利益又は営業損失（△）	114	△18
営業外収益		
受取利息	2	2
受取賃貸料	7	6
その他	0	3
営業外収益合計	10	12
営業外費用		
支払利息	0	1
賃貸収入原価	6	5
その他	0	0
営業外費用合計	7	7
経常利益又は経常損失（△）	118	△12
特別損失		
固定資産除却損	1	－
賃貸借契約解約損	13	－
事務所移転費用	－	14
特別損失合計	15	14
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	102	△27
法人税、住民税及び事業税	22	13
法人税等調整額	21	△2
法人税等合計	43	10
四半期純利益又は四半期純損失（△）	58	△37
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	4	△6
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	54	△31

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	58	△37
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	－	－
四半期包括利益	58	△37
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	54	△31
非支配株主に係る四半期包括利益	4	△6

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	94百万円	113百万円
のれんの償却額	6	5

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　2025年７月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	保険クリニック事業	ＦＡ事業	ソリューション事業	システム事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,298	565	327	377	2,569	－	2,569
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	2	91	93	△93	－
計	1,298	565	329	468	2,662	△93	2,569
セグメント利益又は損失（△）	156	20	96	29	304	△189	114

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額△189百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△188百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等の販売費及び一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　2026年７月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	保険クリニック事業	ＦＡ事業	ソリューション事業	システム事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,512	559	289	357	2,719	－	2,719
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	3	101	104	△104	－
計	1,512	559	292	458	2,823	△104	2,719
セグメント利益又は損失（△）	228	△27	66	△52	213	△231	△18

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額△231百万円には、セグメント間取引消去△4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△227百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等の販売費及び一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。